

(1) 開会

○学校長挨拶

- ・2学期も無事スタート。気温差で子どもたち体調崩している子もいる。
- ・学校行事紹介
- ・あおばフェスタにて、能登豪雨への義援金を集めたいと考えている。あおばの会とも協働していきたい。
- ・議案の追加で、その他のところで、「おりおりくらぶについて」の規約の検討をお願いしたい。規約が承認されたら、口座も開設していく予定。

(2) 日程、協議内容の説明

(3) 学校運営協議会 協議

【切れ目ない支援部会】

- ・地域資源の少なさが課題となっているという話題があがっていた。保護者で何ができるか、という話題も。子どもたちの将来の自立に向けて、親との距離感、地域とのつながりなどの課題が話題に。
- ・地域資源の少なさ、繋がりについては毎回話題になっている。企業として関われること等あるか
- ・企業は閉ざされた空間。内容も目に見えづらいかもしれない。今の課題としては理系に進む子どもが少ないことがある。イベントをやっているが、ただ見ただけではつまらないため、興味を持ってもらう内容を工夫している。横浜市内の特別支援学校とのつながりはある。
- ・企業とのつながりとして、本校に来ていただいた方に、お土産としてお渡しする物のデザインを本校の生徒が考えられないか、という話が出ている。そういった繋がりができるとよい。
- ・卒業後のことは皆さん、課題に感じている。少しずつこういう繋がりが出ていくとよい。好きなこととできることを別に考えることで子どもたちの将来につながるという話を聞いて考えさせられた。
- ・子どもたちにとっては体験が大切。おりおりくらぶもそれを踏まえて体験の場を広げる取組になるとよい。

【地域連携部会】

- ・同じテーマで何回かやってきたが、毎年課題に挙がっていても具体的になっていかないことについての課題が出た。小学校や中学校と違い、地域が広いため、地域とのつながりが定着していかないという課題も出ている。能登の地震等を見て改めて地域防災対策について考えさせられた。高等部1年の防災宿泊の取組も、他学部に応じた形で広げられるか。学校行事に地域の人に来てもらうなど、地域とのつながりを広げ、いろいろな視点で考えていけるとよい。
- ・イベントについては、7月27日に近隣の中学校で盆踊り大会を行った。支援団体による綿あめの提供などあった。このような時にはぜひ参加してもらえるとよい。
- ・実際に避難ができるのか、という話もあり、家庭への支援の必要性を知った。避難所について周知されていないと感じ、職場に持ち帰った。アプリの活用が話題になったため、同じグループの教員の方には、横浜市で始めたなど、「よこはま防災e-パーク」を紹介した。使えるものがあったら使ってもらいたい。
- ・南海トラフのこともあり、実際に家庭でやってみた。どう避難するか、課題が感じられた。具体的にどのようにするべきかが分かった。熟議の中で、学校に防災備品が足りていないことを知った。防災倉庫を置くことが難しいこと、どこに物品を置くか、等が話題になった。あおばの会としても協力したいが、順序立てて検討していけるとよい。県内の支援学校の防災フェスタに参加してみた。本校も青葉区と一

体になって地域と連携して開催していけるとよいと感じた。

- ・倉庫の件は、今学校として検討中。物品をどう保管するか検討が必要。何が必要で、どう整えていくか整理して考えていきたい。地域の防災担当の方に防災フェスタのような取組ができないか、相談させていただいている。
- ・石川県内の特別支援学校からいざという時に何が必要でどのように対応したのか、情報をもらえるとよい。今後、付き合いが続いていけるとよい。徐々に協働のパートナーとして息の長い付き合いができるとうい。Zoomなどでお互いの情報交換ができるようになるとうい。毎年課題が出ているが形にならない、という課題については、一つでも改善につながるよう一歩踏み出せるとよい。熟議がセレモニーで終わらないように。

【地域学校協働部会】

- ・子どもたちの今の実態を確認するなかで、ネットとのつながりが増えていく一方で、様々な人とコミュニケーションをとる機会が減っているのではないか、という話があった。学校としてはあおぼまるに助けられて、様々な人との繋がりができている。地域の伝承あそびなどもできるとよいのではという話題もあった。地域の行事等への参加も、社会的に減っているという話もあった。地域への発信としては、インスタの活用なども話題にあがっていた。スポーツフェスタも、スポーツクラブなどとのコラボで障害児について知ってもらえるとよい。地域や企業と連携しながら、子どもたちの体験活動を広げてあげられるとうい。
- ・学校全体で地域に開かれた学校にしていきたいという話をしている。学校全体の窓口はトラディションセンター。大学としても地域の課題に取り組んでいく方向に進んでいる。地域とのつながりを進めていきたい。大学としてできることを継続的に進められるように。トラディションセンターで防災セミナーを開催した。啓発的なところから進めていきたい。個人的に防災士の資格を取得した。横浜市は救急車が3万人に1台しかなく、有事の際には、公助だけでは難しいと思われる。自助力が必要である。学校全体で防災を見直している。学生が地域との連携で何ができるか考えていきたい。「hab」という会社が、家庭の送迎ニーズについてタクシー会社と連携して取組んでいる会社がある。一つの可能性があると思って紹介させてもらった。

<各部会からの報告を受けて>

- ・3つの部会全て重なっている課題があると感じている。校長室の横の壁にこれまでの取組みを掲示しているが、これまでの取組みから今応援団になっているつながり、卒業後のつながりも見えてきている。任意団体としてのあおぼまるで緩やかな形でゆっくりと形にしていければ、と思う。
- ・スポーツフェスタについては、今の学校主体の部分から地域に移行して主体的にみんなのできる組織にしていけるとよいのか。
- ・おりおりくらぶの中からスポーツフェスタに参画していけるとよい。次年度は学校で行うが、学校行事であるが地域の人にやってもらえるような企画になるとよい。
- ・いろいろ問題があるが、それが実行できている、ということが見えていない。一つでも実行できた、ということがあるとよい。進路については、今どんなところに就職しているか一覧などがあると、こちらとしても地域の中での繋がりで「よろしく頼む」などと声かけはできると思う。
- ・進路先のリストはあるので、次回提示したい。
- ・可視化が必要。ここにいる人のネットワークは強い。
- ・フィリアホールでの話など、いろいろ提案してもらおうが、地域のお祭りなどで太鼓を叩けるだけなどでも楽しめるのではないか。いろいろなことに新しく手を出すより、実現可能なことから進めていくとういのではないか。以前、岐阜県の特別支援学校とのつながりでは、洗濯での繋がりがあった。また、製作したパン等を会社の食堂で販売するなどの形で、地域支援として活動していた。被災地支援でリング

などの特産物を買って、それを販売する取り組みを行っていたが、最初は支援が目的になっていたが、今はその購入を楽しみにするようになった。一過性でなく継続的なつながりの仕組みができてくるとよい。

- ・最初は支援でもその繋がりが継続されていけるとよい。熟議をした後に次のアクションにつなげられるとよい。

(4) 休憩

(5) 学校評価部会 協議

- ・シェイクアウト訓練を実際どのようにやっているか。
- ・月1回実施。地震が起きた時に子どもたちがどのような態勢をとるか、という訓練。グループリーダーが校内を巡回し安全確認ができたなら授業に戻る、という取組みを毎月行っている。繰り返し行うことで、実際の有事の際にも自分で動けるようになることにつながっている。机の下にもぐる、態勢を低くして待つなど、子どもたちも対応に慣れてきている。
- ・子どもの話から、火事の時には頭を守るなど、 毎月の積み重ねが身につけていると感じている。
- ・毎回実施時間も変えているため、教室内だけでなく、体育館やグラウンドなど、様々な時間、場所でシェイクアウトできるよう訓練している。
- ・家庭ではなかなかできない体験。慌てずに行動することにつながりありがたいと思っている。
- ・先生達の端末が回収されたという話があったが、それは改善されたのか。
- ・まだ改善されていない。教示用のパソコンが子どもたちに回るようになったため。早急に配備をとら思っているが、なかなか進まない。
- ・電子黒板が入ってうまく活用しながら授業を行っている。ICTを活用した授業は進められるようになっている。教示用のパソコンがないので、そこへの困りはある。個別にお子さんの端末を活用しながら行っている場面もある。
- ・整備が進まないと働き方改革にもつながらないのでは。
- ・教員用のパソコンは、未だに有線 LAN でスペックの低いパソコンで仕事をしている状況。そのパソコンは職員室の机上から持ち出せない仕組みになっていて使い勝手はよくない。
- ・公立学校の事情の難しさがある。校長の裁量でできる部分と教育委員会の部分とがある。

(6) その他

○人権を尊重して授業づくりについて中間報告。

- ・「さん」づけ呼称については、子どもにとってはどうなのか
- ・小学生は親しみやすい呼び名がよい。中学になると他の中学校でも呼び捨てなどが多い。子どもにとっても感じ方が違うのでは。友達同士で相手をどう呼ぶかということにもつながるので、「さん」づけが進められていくのはよいと思う。
- ・保護者からさんづけは・・・という意見もある。しっくりくる子もいるが、そうでない子もいる。本人がどう呼ばれたいか、保護者がどう思うか、という様々な側面がある。
- ・子どもの精神年齢も関係するのではないか。
- ・学校としても改めてどうして行くのが良いのか考えていく必要があるかもしれない。
- ・鉄小学校では、原則男子も女子も「さん」づけになっている。教員も友だち同士も。原則的にはあるが、小さい規模なので、下の名前で呼び合う様子はある。教員は、フルネームで呼ばないと区別できない場面もある。

- ・授業中にスマホを持っていくことについて横浜市は全く NG だが県ではどうか。教員一人1台の端末も、通信のできる通信機器は使用できないが、通信できない物を活用するようなアイデアもある。
- ・県立も通信機器の持ち込み NG は同じ。
- ・担当している児童生徒の障害・病気について理解している、という部分について、中学部で否定的な数値が高いが、どの程度の理解を考えているのか。
- ・中学部は母数が少ないので、割合が高くなってしまう。
- ・次年度から学校独自の事業としてスタートする。あおばまると相談しながら進めている。自主的に運営してもらおうシステムを作っていきたい。今日、承認していただいたら、これから団体に声をかけて試行していきたいと考えている。地域の子どもたちにも参加してもらいたい。障害種、学年問わず、肢体、知的、小学部から高等部までだれでも参加できるように。会長には〇〇さん、副会長に〇〇さんをお願いできたらと思っている、事務局はあおばまるところを目指していきたい。
- ・今行っているオリオリ教室はどのような感じか？
- ・年間 70 回程度。サッカー、太鼓、ヨガ、ボッチャ、アート等の活動を行っている。
- ・今までくろがね倶楽部の〇〇さんがやっていた。継続的にできるような活動になるとよい。
- ・時間は？放課後？土日？
- ・今は 15 時から 16 時くらい。今後もそのような時間帯か今後は土日も考えていきたい。
- ・学校教育の外で障害者の生涯学習という形ですすめていけるといい。
- ・今後保護者にも周知していくなどして進めていきたい。

その他

- ・熟議で話したことを整理して、実現に結び付けていけたらと思う。学校評価についてもご意見をいただきありがとうございます。今日の見解を参考にしながら取組んでいきたい。今後ともご支援をお願いいたします。